

氏名	陳(チン) コウニ	
テーマ	友だちの ^{イチマルイチ} 101さん	
教室名	さくら日本語教室	

みなさん、こんにちは。私は台湾出身の陳コウニと申します。今日は友人のナナさんとの旅行の思い出をお話しします。

台湾人にとって、旅行といえば、日本です！

日本は近いだけではなく、買い物も便利だし、食べ物もおいしいし、何回来てても飽きません。子供の頃から、いつも家族と一緒に日本各地を観光しました。

そして3年前、初めて、友だちのナナさんと2人だけで海外旅行をすることになりワクワクしました。訪れた福岡は想像以上に良い所でした。太宰府に参拝したり、由布院の温泉に行ったり、美味しい物を食べたりしました。

楽しい時間はいつも速くすぎます。帰る日になりました。帰りの便は夜7時です。朝、ナナさんと天神駅のロッカーに荷物を預け、お土産を買ったりのんびり過ごしました。やがて時間になり、ロッカーへ荷物を取りに行きました。ナナさんは鍵をあけると、『えっ！ない！私の荷物！』と叫びました。信じられません、すっからかんでした！

ナナさんは目がうるうるして『どうしよう…もう空港へ行かなくちゃいけないのに…』と言います。航空券は当日変更できないので、仕方なく最終便の航空券を買いました。あと3時間、それまでにナナさんの荷物を見つけられるかどうか、私も自信がありません。

早速天神駅の案内所へ行き、尋ねました。すると、係の人は『すみません、ロッカーの管理事務所へ電話してください。』と言います。そのときの私は日本語を話すことも聞くこともできませんでした。隣にいるナナさんの目からは涙がポロポロと流れています。それで、私は勇気を出して、英語で電話をかけました。『すみません、台湾人なので日本語がわからないのですが…今朝、天神駅のロッカーに荷物を預けたのに、今開けたら、荷物がありません…』事務所の人は優しい口調で『はい、わかりました。ただ今お待ちします。そちらで少々お待ちください。』と言いました。

ナナさんはしゅんとしてずっと下を向いたままです。5分ほどだった頃、事務所の人が来て、ひとつのロッカーを開けました。『荷物はこちらでございます。』

私たち2人は驚いて、言葉も出ませんでした。事務所の人は『今朝、あなた方の姿は、防犯カメラに映っていました。この荷物は100番に入れてドアを閉めました。でも、隣の101番にお金を入れて、鍵を抜いてしまったんですね。』

結局私たちは日本語を一言も話しませんでした、無事に台湾へ戻ることができました。そのことがあって以来、私はナナさんを101さんと呼んでいます。私にとって、これは最も印象深い旅行になりました。英語は世界中どこでも通じ便利です。でも日本が大好きな台湾人にとって、やっぱり日本語を理解できることが一番大切だと思ったからです。

この事件がきっかけで、私は日本語を学ぶ決心ができました。101は台湾で一番有名なビルです。でも私には忘れられない思い出をくれた親友のナナさん、101さんのことでもあります。

ご清聴ありがとうございました。